

北九州市環境ミュージアム指定管理者選定に関する提案概要

審査項目	タカミヤ・里山・エックス共同事業体
1 指定管理者としての適性について	<p>(1) 施設の管理運営（指定管理業務）に対する理念、基本方針 持続可能な社会に向けた環境学習を提供する 「まちの環境力を高める市民の力」プラットフォームを理念とし、</p> <p>① 持続可能な社会の価値観を醸成する ② 環境創造を社会経済の発展につなぐ ③ 持続可能な社会に即した新しい文化・交流を育む</p> <p>の3つの基本方針のもとに、さらなる環境学習拠点としての発展を図っていく。</p> <p>(2) 安定的な人的基盤や財政基盤 【公益財団法人タカミヤ・マリバー環境保護財団】 ① 水辺の環境保全活動と青少年育成活動を行う専門家集団 ② 収入 23,596 純利益 511 正味財産 239,626 (千円：令和5年度)</p> <p>【特定非営利活動団体里山を考える会】 ① 持続可能なまちづくりに必要な人材を育成する専門家集団 ② 収入 158,990 純利益 -27,354※ 正味財産 49,238 (千円：令和5年度) ※純利益が-27,354千円となっているのは、借地権の終了に伴い所有建物の取り崩しを行ったもので、固定資産除却損として36,780千円が計上されたためである。これを除いた純利益は9,425千円である。</p> <p>【株式会社エックス都市研究所】 ① 持続可能な脱炭素社会をデザインし、プロデュースする専門家集団 ② 収入 3,190,746 純利益 122,369 正味財産 1,351,571 (千円：令和5年度)</p> <p>(3) 実績や経験など (公財) タカミヤ・マリバー環境保護財団は平成18年、(特非) 里山を考える会は平成21年、(株) エックス都市研究所は平成31年から環境ミュージアムの運営に参画し、館の発展のための知見・ノウハウを蓄積してきた。 その成果は、① SDGs 基軸の学習体制整備、② 市内外、海外、幼児から大人までの各階層への的確な対応、③ 楽しみながら学べるイベント実施などに生かされるとともに、④ 出張ミュージアム、⑤ 各種企画展の開催、⑥ 各種団体の活動バックアップなどの活動につながり、国内外を代表する環境学習施設としての地位を固めている。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 管理運営計画の適格性</p>	<p>【有効性】 に関する 取組み</p>	<p>(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み</p> <p>少子化、コロナ禍を経ての社会変容、訴求内容の深化等を踏まえ、利用目標人数は8万人とする。また、出張ミュージアム、オンライン学習プログラムを積極的に展開し多様化する社会様態に応える。従来の取組の充実に加え、「カーボンニュートラル社会」と「デジタル社会」を見据え、</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 新規解説プログラム開発 ② 最先端映像機器による東田エコツアー ③ 企業とカーボンニュートラル企画展 ④ XR・メタバース時代の体験学習 <p>等の新規事業に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境基本計画に掲げる「市民の力でまちの環境力を高める」ための中核施設としての役割を果たす と同時に、環境産業の国内外への発信、環境に関する新しい文化創造、国際化等の取組により、基本構想の稼げるまち、彩りあるまちづくりの役割を果たす。さらには、東田地区のまちづくりに対しても、スローモビリティ導入等さまざまな形で貢献していく。 ・多くの人が気軽に立ち寄れるよう、入館料無料を継続する。 ・① 春夏冬休み及びGW期間中の毎日のイベント開催、休日開館 ② 出張ミュージアムの拡大 ③ミュージアムの魅力を詳細に伝える広報媒体の開発 ④ミュージアムファンクラブの設置・運営 <p>などを通じて利用者の増加、利便性向上に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・① 3館連携プログラムの実施 ② JICA等国際機関との連携プログラム ③ FAISとの連携プロジェクト ④ 母体団体との連携事業（シェア祭り、水辺の教室、里山トラスト等）等、他施設との連携により、取組みの幅を拡げ、魅力を高める。
		<p>(2) 利用者の満足度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の満足度に関しては、一般利用者、団体ともに 100%を目指す。 ・① 相手の属性やニーズに応じたガイドプログラム提供 ② 利用者ニーズの詳細把握 ③ 双方向での学び ④ 事後フォロー等を通じて満足度の向上に努めるとともに、 ⑤ 専門性・国際性の高いガイドプログラム ⑥ 工夫を凝らしたゲーム・工作開発、 ⑦ 高感度カメラを用いたエコツアー <p>等の 実施により、魅力度をさらに高めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙や WEB による定型アンケートに加え、インタビューを定期的に行い詳細なニーズ把握に努め、PDCA サイクルにより、迅速な対応につなげていく。 ・環境に精通したスタッフ、英語対応スタッフ、生き物担当スタッフ等一人一人のバックグラウンドを活かした多様なプレゼンテーション体制を整備する。

	<p>【効率性】 に関する 取組み</p>	<p>(3) 指定管理料及び収入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・① 運営母体スタッフの無償協力 ② スタッフの専門性を活かしたマルチタスク制導入 ③ スタッフ自らによる企画・準備・実行の一貫作業 ④ 管理作業の一部と公用車の管理を母体団体が担う <p>など、費用の最大限の削減を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有料イベント、エコツアー、出張ミュージアムの拡大を図るとともに、エコショップの充実に取り組む。また、エコハウスの市民や企業の集う場（コワーキングやイベントスペース等）としての利用、企業等の各種有料研修の実施についても検討する。 ・市民の力でまちの環境力を高める役割を担う施設であることに鑑み、入館料は無料とするとともに、施設の利用料金は市の定めた料金とする。貸室、設備利用で得た収益は、指定管理者業務の充実に充てる。 <p>(4) 収支計画の妥当性及び実現可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの運営実績で得た知見に基づき、事業費・人件費・施設維持管理費等を最も効率的かつ効果的な視点から見定めた経費を計上するとともに、機械設備、空調保守、電気工作物保安等は、地元の信頼ある専門業者に再委託を依頼する。 ・外構管理、側溝清掃、除草、映像音響設備管理等の日常点検管理は、専門知識を習得するスタッフが管理遂行し、経費の削減に努める。 ・PDCAサイクルの考えに基づき、経費計上、委託の在り方等を、毎年その時点で効率的かつ効果的な成果をあげているかの評価を行い、適宜見直しを図っていく。 <p>提案額</p> <table border="0"> <tr> <td>令和7年度</td> <td>90,703千円</td> </tr> <tr> <td>令和8年度</td> <td>90,803千円</td> </tr> <tr> <td>令和9年度</td> <td>90,853千円</td> </tr> <tr> <td>令和10年度</td> <td>90,953千円</td> </tr> <tr> <td>令和11年度</td> <td>91,003千円</td> </tr> </table>	令和7年度	90,703千円	令和8年度	90,803千円	令和9年度	90,853千円	令和10年度	90,953千円	令和11年度	91,003千円
令和7年度	90,703千円											
令和8年度	90,803千円											
令和9年度	90,853千円											
令和10年度	90,953千円											
令和11年度	91,003千円											

	<p>【適正性】 に関する 取組み</p>	<p>(5) 管理運営体制など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理については、事務局長、館長、副館長2名、施設長、事務局長代理を配し、それぞれの役割について豊富な経験を有するスタッフを確保する。館長、施設長、事務局長代理は専任とする。運営 スタッフは、事務1名、語学、生き物、IT 等にそれぞれが得意分野を持つガイド5名に加えて、バックアップスタッフ5名が入館やライブラリ受付を行うとともにキャリアを活かして館の保守管理、衛生管理、イベント、清掃等も担う。また、運営母体の事務3名、研究員3名が非常勤で運営に参画する。 ・ミュージアムの運営について客観的な評価を行うために、有識者、各種団体代表等から構成する運営委員会を設置し、年2回の報告、意見聴取、運営への反映を行う。 ・常にスタッフのスキル向上を図るため、定期的に外部講師招聘も含めて研修を行う。 <p>(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境ミュージアム個人情報保護規定の作成、研修実施等で個人情報保護対策の徹底を図る。 ・安全衛生管理委員会を設置し、衛生管理、ハードや心のバリアフリーを体系的に確保する。 ・安全管理マニュアルを整備し、定期的な職員研修などを通じて、安全対策や事故発生時の対応の 実効性を確保する。 ・新型コロナの教訓の下、日常の施設内の消毒等、パンデミック対策について徹底を図る。 ・防犯・防災に関するマニュアル整備と職員研修を行う。 <p>(7) 地域貢献・社会貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八幡東田まちづくり連絡協議会、北九州市立大学、八幡高等学校、明治学園小学校、JICA 等国际機関など地域に在る機関と共同プロジェクト等密接な関係を築き、互いがWIN-WINの関係の中での地域の発展に尽力する。また、東田エリアの一員として、他のミュージアムはもとより、商業施設、近隣の商店街等と一体となり、エリア及び周辺地域の発展に寄与する。 ・バックアップスタッフには、原則、65歳を超える高齢者を雇用する。 ・SDGs 達成に取り組む施設の模範として、グリーン購入、SDGs 職員研修、里山保全活動、パートナーシップづくり等に取り組む。 ・こども食堂、フードバンクに対する活動支援を行う。 ・市内企業の SDGs 達成に向けた取組等を、広く国内外に発信する。 ・エコハウスの場の有効活用を通じて、市民と企業の主体的なアクションや協業を支援する。
--	-------------------------------	--